

荒廃した森に緑を！

枚方市

アドプトフォレスト制度活用

東部清掃工場敷地の緑地(約3ヘクタール)が環境にやさしい広葉樹林化するようになった。

同工場は、森に囲まれた緑豊かな環境に位置する。世界最高水準の排ガス規制の技術で、地域環境を守る構造をもって建てられた施設だが、現在、用地買収を行った緑地部分は、昨年の台風などの影響による倒木、竹林化が進み荒廃した森林となっている。(写真)

同地は、環境影響評価に基づき、緑地面積を全体の6割以上維持されるよう計画決定されているため、周辺地域への環境保全整備が課題となっていた。こうしたなか、先

月、市と大阪府(環境農林水産部)と協力して推進室、森づくり課、中部農と緑の総合事務所(地域政策室)と、公益社団法人大阪み

どりのトラスト協会と、企業2社との4者間でアドプトフォレスト協定を締結した。同制度は大阪府が社会貢献を希望する企業等と森林所有者を仲介し、放置された人工林や荒廃した森林を整備するもので、維持管理費(除草費)を企業が一部負担し、活

用する事業者(東部清掃工場職員ら)は緑地の植栽や間伐等、広葉樹林化する。大阪府の森林面積は約5万6600ヘクタールで、府域のおよそ3分の1を占める。これら森林



台風被害で荒廃した竹林

は生物多様性の保全や地球温暖化防止など多様な役割を担う貴重な環境資源だが、管理されなかつたり、竹林が広がったり荒廃しているケースが増えている。環境保全活動を実施する関係者の努力は並々ならぬものがあり、枚方で初めての制度活用となる。

市の担当者は「枚方の東部は里山が広がり生物も多い。官民の力を合わせ市民に親しまれる森づくりに取り組みたい」と期待を寄せる。

(問) ☎072-8586962
市環境部 東部清掃工場